

科目名	特別講義 8							年度	2025
英語科目名	Special Lecture 8							学期	通年
学科・学年	音響芸術科 2 年次	必／選	選	時間数	15	単位数	1	種別※	講義
担当教員	古川敬祐・ゲスト講師		教員の実務経験		有	実務経験の職種		エンジニア	
【科目の目的】									
主体的に講義に参加し、エンタテインメント業界の知識や問題意識を学ぶ。その知識を2年生後期の学習に活かす視点を獲得し、講義を通じて卒業後の自身の指針を発見する。									
【科目の概要】									
特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。									
【到達目標】									
A. 主体的に講義に参加する。 B. エンタテインメント業界の知識や問題意識を、2 年生後期の学習の場に活かす視座を得る。 C. 講義をきっかけに各自が卒業後に向けた今後の自分の指針を発見する。									
【授業の注意点】									
学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視しキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は評価を受けることができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3		レベル2		レベル1				
	優れている		ふつう		要努力				
到達目標 A	主体的に講義に参加する		講義に参加する		到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	エンタテインメント業界の知識や問題意識を、2 年生後期の学習の場に活かす視座を得る		エンタテインメント業界の知識を、2 年生後期の学習の場に活かす視座を得る		到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	講義をきっかけに各自が卒業後に向けた今後の自分の指針を発見する。		卒業後に向けた今後の自分の指針を説明できる		到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】									
プリント資料を配布する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】									
評価基準はルーブリック評価に基づき、授業への参加姿勢と最終課題によって評価する。									

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。							
科目名		特別講義 8				年度	2025
英語表記		Special Lecture 8				学期	通年
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	第一課題 課題発表 概要説明	課題の趣旨を理解	1	特別講義とは	授業対象講義の意義がわかる	3	
			2	課題発表	第一課題の意義がわかる		
			3	課題理解	課題の内容を理解できる		
2	第一課題 実践	現場を想定した体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
3	実践	現場を想定した体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
4	実践	現場を想定した体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
5	実践	現場を想定した体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
6	実践	現場を想定した体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
7	まとめ	応用方法を学ぶ	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	構造化した課題の合成	分解した課題をまとめる		
			3	課題発表	第一課題をまとめ、発表する		
8	第二課題 課題発表 概要説明	課題の趣旨を理解	1	第一課題の振り返り	第一課題について振り返りができる	3	
			2	課題発表	第二課題の意義がわかる		
			3	課題理解	課題の内容を理解できる		
9	実践	現場を想定した体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
10	実践	現場を想定した体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
11	実践	現場を想定した体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
12	実践	現場を想定した体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
13	実践	現場を想定した体験	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3	課題練習	構造化した課題について練習を行う		
14	まとめ	応用方法を学ぶ	1	現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2	構造化した課題の合成	分解した課題をまとめる		
			3	課題発表	第二課題をまとめ、発表する		

15	総合復習	復習の実践	1	第一課題の振り返り	第一課題を自分のものにできる	3
			2	第二課題の振り返り	第二課題を自分のものにできる	
			3	特別講義の可能性	授業対象技術を取得することへの可能性を知る	
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他						
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった						
備考 等						